



寄稿文

阿寒の経験

一般社団法人日本スノースポーツ＆リゾーツ協議会 理事

松岡 尚幸

人工降雪機

初めての投稿ですので身近なところの話をしたいと思います。私は、北海道の道東の阿寒湖温泉で現在阿寒湖畔スキー場の責任者として運営に携わっています。38年ほど前に地元スキー場に人工降雪機の設置を提案しましたが、当時、町は町内の除雪にひと冬5千万から6千万ほどかけていました。「松岡！除雪にそれだけ金をかけているのに雪を降らす機会に億の金をかけるってのはお前何を言ってるんだ!!」と、何とも分かりやすい理窟で一蹴されました。

それでも諦めずに2年後くらいでした。

町長選があり新人候補の方の家を訪ね「人工降雪機をつけてくれれば貴方を応援する」とたった一票しかない自分なのによく言ったものだとそこは今でも自分でびっくりしています。そして結果は当選。新町長はすぐに実行してくれました。

町長選挙

4月の選挙でした。当時の景気の良さもあり、その冬には降雪機が稼働していました。2年目には大会も開催。以来継続して開催出来ており、今シーズンで34回開催となりました。

北海道でも東の方へ来ると雪はあまり降りません。しかし寒さはあります。

降雪機の機能が最も発揮される地域だと思います。

スキーパークの誘致

その冬、スキー場がオープンしたのは11月20日でした。前のシーズンは1月24日のオープンでしたから2か月以上早まることになります。以来毎年全国から合宿に来ていただいています。降雪機を導入して35年。35年間一度も欠かさず来てくれている高校があります。富山第一高校スキーパークです。一年目に来てくれたのは5チームでしたが2年目からは沢山のチームが来てくれるようになりました。



7年ほど前にインジェクションを導入しました。

これは、コーチの方から世界のトップを目指すのであればよりレベルの高いコース環境でトレーニングしたい。

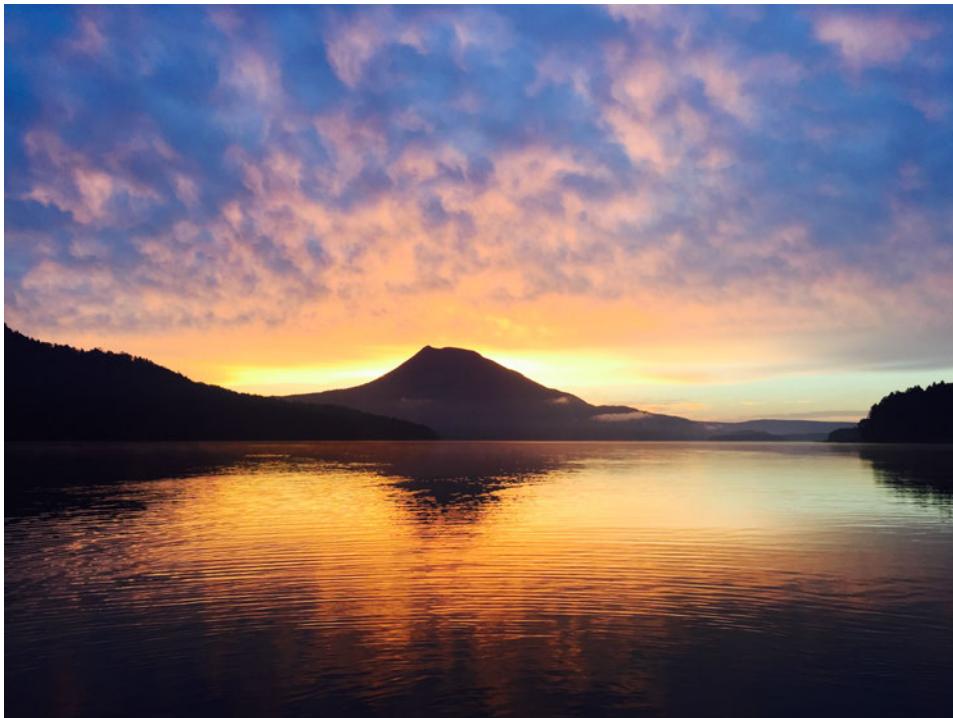
その為に阿寒にインジェクションがあれば世界に近づく環境になると熱い話をもらい決心しました。

選手強化を考えたとき、降雪機とインジェクションという設備は絶対的に必要な設備になります。

世界のトップを目指せる環境

最後に

札幌オリンピックが開催されることを願っています。アルペンで表彰台に上がる事、できれば真ん中に立ってもらい君が代を聞きたい。そんな思いを強く持っています。皆さんと共有出来るであろうこの夢を叶える為に環境つくりにご理解をいただき実現にご協力をお願いします。



松岡 尚幸 / Matsuoka Hiroyuki

1952年5月25日 阿寒湖温泉生まれ（69歳）
有限会社 東邦館 会長
現在) 阿寒観光協会街づくり推進機構 理事長
北海道スキー連盟 副会長
北海道スポーツ協会 理事
全日本スキー連盟 理事（国体、マスターズ担当）